

# とやま住まいとまちづくり推進懇話会

## 平成 26 年度 第 3 回情報交換会

### 「建築技術の行方」

1. 日 時 平成 27 年 3 月 27 日 (金) 午後 12 時 15 分から 15 時 00 分

2. 場 所 富山電気ビルディング 4 階 8 号室  
(富山市桜橋通り 3 番 1 号 TEL 076-432-4111)

### 3. 卓 話

演題「職人アーカイブ事業で感じたこと」

講師：林 芳宏 氏

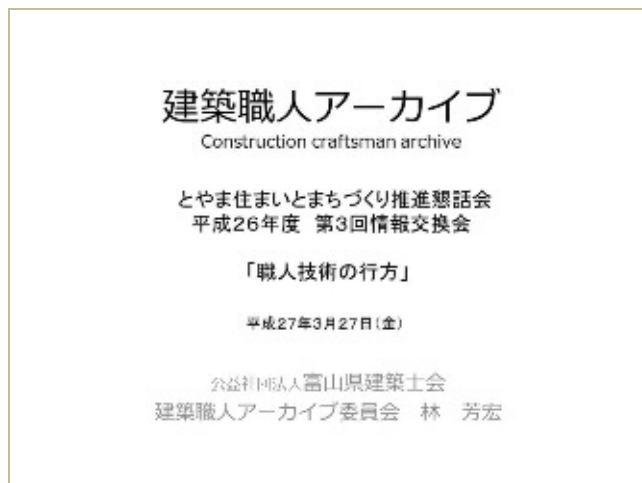
富山県建築士会 副会長  
空創建築計画事務所 代表



#### ご経歴

昭和 40 年 高岡市生まれ  
平成 2 年 福井大学工学部建築学科卒  
平成 2 年 コモン建築設計事務所  
平成 5 年 (有)建築科学研究所  
平成 15 年 空創建築計画事務所開設・代表

\*\*\*\*\*



「富山県内各地にある様々な建築関連技術には地域性を持った高度な技術があり、優れた伝承者がいるにも関わらず、建築生産現場における環境の変化のためにこれらの貴重な技術は失われつつある。」という現状認識で、

「このことによって伝承者が技術を伝えることが困難になっている。そのため、これらの技術や伝承者を取り上げ、どのような技術がどのような人によって伝承されてきたかを調査し、これからの建築技術の手本とすると共に、後世に伝えるための資料を作成し、広く県民や建築関係者への啓蒙の資料とする。」

ということで、事業を始めるにあたり、いくつかのポイントを設定した。

- 1 富山県における建築職人の職域の状況についての調査  
(どのような職種があり、どこまでの仕事を調査の範囲とするのかを決める)
- 2 職人の年齢層と後継者(伝承者)についての調査
- 3 近代化に伴う変化に対応してきた職人の技術の記録に

今日の情報交換会のテーマは「職人技術の行方」ということだが、建築士会が取り組んでいる「建築職人アーカイブ事業」について話題提供します。

事業名の下に英文で、Construction craftsman archive としているが、craftsman は master かもしれない。archive は記録という意味です。

この事業を実施することにした趣旨は、

についての整理

#### 4 職人の記録を公表することで職人の存在意義について

取材時に関し取る項目

項目	内容
1	職人の職歴(年数)
2	職人の職歴(職種)
3	職人の職歴(得意分野)
4	職人の職歴(得意工種)
5	職人の職歴(得意材料)
6	職人の職歴(得意機材)
7	職人の職歴(得意現場)
8	職人の職歴(得意顧客)
9	職人の職歴(得意業種)
10	職人の職歴(得意地域)
11	職人の職歴(得意季節)
12	職人の職歴(得意時期)
13	職人の職歴(得意曜日)
14	職人の職歴(得意曜日)
15	職人の職歴(得意曜日)
16	職人の職歴(得意曜日)
17	職人の職歴(得意曜日)
18	職人の職歴(得意曜日)
19	職人の職歴(得意曜日)
20	職人の職歴(得意曜日)
21	職人の職歴(得意曜日)
22	職人の職歴(得意曜日)
23	職人の職歴(得意曜日)
24	職人の職歴(得意曜日)
25	職人の職歴(得意曜日)
26	職人の職歴(得意曜日)
27	職人の職歴(得意曜日)
28	職人の職歴(得意曜日)
29	職人の職歴(得意曜日)
30	職人の職歴(得意曜日)
31	職人の職歴(得意曜日)
32	職人の職歴(得意曜日)
33	職人の職歴(得意曜日)
34	職人の職歴(得意曜日)
35	職人の職歴(得意曜日)
36	職人の職歴(得意曜日)
37	職人の職歴(得意曜日)
38	職人の職歴(得意曜日)
39	職人の職歴(得意曜日)
40	職人の職歴(得意曜日)
41	職人の職歴(得意曜日)
42	職人の職歴(得意曜日)
43	職人の職歴(得意曜日)
44	職人の職歴(得意曜日)
45	職人の職歴(得意曜日)
46	職人の職歴(得意曜日)
47	職人の職歴(得意曜日)
48	職人の職歴(得意曜日)
49	職人の職歴(得意曜日)
50	職人の職歴(得意曜日)
51	職人の職歴(得意曜日)
52	職人の職歴(得意曜日)
53	職人の職歴(得意曜日)
54	職人の職歴(得意曜日)
55	職人の職歴(得意曜日)
56	職人の職歴(得意曜日)
57	職人の職歴(得意曜日)
58	職人の職歴(得意曜日)
59	職人の職歴(得意曜日)
60	職人の職歴(得意曜日)
61	職人の職歴(得意曜日)
62	職人の職歴(得意曜日)
63	職人の職歴(得意曜日)
64	職人の職歴(得意曜日)
65	職人の職歴(得意曜日)
66	職人の職歴(得意曜日)
67	職人の職歴(得意曜日)
68	職人の職歴(得意曜日)
69	職人の職歴(得意曜日)
70	職人の職歴(得意曜日)
71	職人の職歴(得意曜日)
72	職人の職歴(得意曜日)
73	職人の職歴(得意曜日)
74	職人の職歴(得意曜日)
75	職人の職歴(得意曜日)
76	職人の職歴(得意曜日)
77	職人の職歴(得意曜日)
78	職人の職歴(得意曜日)
79	職人の職歴(得意曜日)
80	職人の職歴(得意曜日)
81	職人の職歴(得意曜日)
82	職人の職歴(得意曜日)
83	職人の職歴(得意曜日)
84	職人の職歴(得意曜日)
85	職人の職歴(得意曜日)
86	職人の職歴(得意曜日)
87	職人の職歴(得意曜日)
88	職人の職歴(得意曜日)
89	職人の職歴(得意曜日)
90	職人の職歴(得意曜日)
91	職人の職歴(得意曜日)
92	職人の職歴(得意曜日)
93	職人の職歴(得意曜日)
94	職人の職歴(得意曜日)
95	職人の職歴(得意曜日)
96	職人の職歴(得意曜日)
97	職人の職歴(得意曜日)
98	職人の職歴(得意曜日)
99	職人の職歴(得意曜日)
100	職人の職歴(得意曜日)

広く県民へ啓発するための取材内容の精査と調査資料の整理—これは、最終的に書籍化することを目指している。

このポイントを押さえながら、事業をおこなってきた。

これまでの経緯は

#### 平成 23 年度

富山県建築士会 12 支部（現在は一部の支部が合併し 9 支部となっている）へ取材すべき職人のリストアップを依頼した。結果として 25 職種 106 名がリストアップされた。次表

#### 4.担当者（2～3名）で調査

聞き取る内容を出来るだけ統一するために次のような聞き取り項目を設定した様式により、録音機とデジタルカメラを使用しての面談聞き取り

5.聞き取った内容をヒアリングノートにまとめ、その後に文章化

6.作成した資料を調査対象職人へ提示し内容についての正誤を確かめる

7.内容を精査した後に入稿（ただし、委員会でさらに編集する場合もある）し、ホットラインに掲載

という過程を踏んで事業を行ってきた。

まず、調査の内容ですが、こんなヒアリングノートです。

表1 調査開始時点での県内の取材予定職人リスト 106名

細かいので、主なものは、

- ・仕事に就いた年齢
- ・仕事をしていた期間
- ・誰に仕事を教えてもらったか・・・これは、個人的に興味があった項目で、技能の系譜—大工であれば、何々流とか何々派とか—があるのであれば、知りたいと考えた。
- ・一人前になるにはどれくらいかかったか、自立したのは何歳か
- ・今までにどれくらいの仕事をしたのか、住宅なら何棟？
- ・仕事の範囲（仕事の前後の工種）
- ・道具や機械で、どんなものを何処で入手し、扱いの難しいのは何だったか
- ・材料や消耗品について何処から入手し、その使い分けの基準
- ・工法に関することや工事について
- ・なぜ職人になったか（この道にすすんだか）
- ・一番嬉しかったことや記憶に残る作品
- ・一番難しかったことや苦しかった事
- ・仕事で大切なこと

#### 平成 24 年度

建築士会の毎月送付資料建築情報ホットラインへ掲載し始めた。

建築士会創立 60 周年記念式典会場（富山国際会議場）にてパネル展示。

また、建築士会内に特別委員会として建築職人アーカイブ委員会を設置し、私はその委員を務めている。

#### 平成 25 年度

引き続き調査継続実施、ホットラインへの連載継続。

#### 平成 26 年度

取材最終年度となっている。

それでは、どのように調査をしているかという、

- 1.調査対象者のリストアップ（支部ごと）
- 2.調査担当者の選定（支部ごとの調査だが、場合によっては他支部が担当）
- 3.担当者から調査対象者へ事業の趣旨の説明と聞き取りの承諾と調査日時の調整

- ・尊敬する人
  - ・技術の変遷や工法の変化とその時にはどんな苦労があったか
  - ・変化したことが良かったかどうか
  - ・施主（注文主）の変化
  - ・自分以外の職種で記憶に残る人
  - ・仲間の職人で昔のことをよく知っている人
  - ・後輩や設計者に言いたいこと
- などを聞いて記録した。

また、担当者が見聞きした職人のことや作業場の状況、道具や機械類を見た感想などを書き込んだ。

聞いただけでは判らなかったことや、今後の調査に役立つ情報もメモしてある。

このような取材結果をまとめて、デザインして、建築士会創立60周年記念事業の会場で16名の分をパネル化して展示した。

本日まで出席の当時建築士会の副会長だった堂田事務所協会会長の尽力も大きかった。



これは、展示の状況



このパネルは好評で、職人さんにもたいへん喜ばれた。なお、これを平成25年10月に実施された「住まい博富山130」の会場でも展示し、その後職人さんに差し上げた。



左は、建築士会の会員向けの月報に連載している「職人アーカイブ」の例です。A4サイズで、職種、お名前、顔写真、ご経歴、そして、取材内容に沿って、サブタイトルや写真を交えて記事にしています。印刷は白黒ですが、

一枚はカラーで作っている。

現在までに75名を取り上げ、連載してきました。

調査を続けながら、職人の全体像をまとめております。

これは昨年度末までのものですが、

取材結果をまとめたもの（26年4月時点）

職人氏名	職種	地域	年齢	修業期間	後継者	備考
田中 健太郎	大工	富山県	65	10年	なし	美と精神は当時の技法の中に宿る
竹内 信高	板金	富山県	60	15年	あり	板金三代時代が求める確かな技術者を育てたい
石崎 勝紀	大工	富山県	68	20年	あり	職人アーカイブ
山本 隆夫	大工	富山県	72	25年	あり	職人アーカイブ
佐藤 健一	大工	富山県	75	30年	あり	職人アーカイブ
鈴木 一郎	大工	富山県	78	35年	あり	職人アーカイブ
高橋 誠二	大工	富山県	80	40年	あり	職人アーカイブ
中村 三郎	大工	富山県	82	45年	あり	職人アーカイブ
小林 四郎	大工	富山県	85	50年	あり	職人アーカイブ
渡辺 五郎	大工	富山県	88	55年	あり	職人アーカイブ
山田 六郎	大工	富山県	90	60年	あり	職人アーカイブ
田中 七郎	大工	富山県	92	65年	あり	職人アーカイブ
佐藤 八郎	大工	富山県	95	70年	あり	職人アーカイブ
鈴木 九郎	大工	富山県	98	75年	あり	職人アーカイブ
高橋 十郎	大工	富山県	100	80年	あり	職人アーカイブ

現時点（27年3月末）での調査終了者は75名

職種別、地域別の取材した職人の分布と、系譜はお師匠さん、修業期間、技術の変遷、後継者の有無などを整理しています。

また、追加調査として、職人個人への調査以外に、業界団体に対するヒアリングも実施してきました。

職人個人の歴史だけでなく、職能団体の歴史、流れを聞き取ることで職人を取り巻く環境や技術の変遷、機械化の流れなどを知ることができると考えたからです。

聞き取りした団体は次のとおりです。

- ・建築組合及び建築大工技能士会
- ・瓦工事業協同組合

- ・鉄筋業協同組合
- ・建具業協同組合
- ・造園組合
- ・表具師文化協会
- ・富山県鉄構工業協同組合
- ・富山県板金工業組合
- ・富山県左官事業協同組合
- ・富山県石工技能士会
- ・富山県畳組合連合会
- ・日本塗装工業会富山県支部
- ・富山県管工事業協同組合連合会
- ・富山電業協会

以上 14 団体です。まだ抜けているところもありますが、団体のある職種をほぼカバーできました。

調査した内容をまとめています。ここでいくつかご紹介しますが、時間の関係で内容もかなり割愛しています。

一番人数の多い**建築大工**では、

- ・調査対象の方の年齢は 63 歳から 94 歳と幅は広いが高齢者が多い。
- ・大工としての修行開始年齢は中学卒業後の 15 歳が多く、修業先は家族が多い。
- ・修業期間は他の業種に比べると比較的長い。
- ・厳しい徒弟制度の中で技術を伝承していたことが伺える。
- ・地域の太工として信頼されて住宅をつくるが多かったようだが主に住宅に携っている大工が社寺建築を作ることもあったようだ。
- ・時期は不明だが機械化の波は仕事への取り組み方に大きな変化をもたらした様子が伺える。
- ・皆さんよく言われたが、高度成長期が背景にあったためか仕事は多くあったようである。
- ・個人として仕事を続けた方は後継者が少ないようだが、法人化した方は後継者がいる。
- ・一方で、職業訓練校での指導などを通じて後進に技術の継承を行った方もいる。
- ・皆さんが研究熱心で新しい技術についても熱心に取り組んだようであるが昨今のプレカットへの対応については調査数が少なく、不明である。

数は少ないが**宮大工**では

- ・氷見の大窪大工の系譜を受け継ぐ藤岡氏（氷見市）は氷見を中心として能登羽咋などの近隣だけではなく京都へも仕事に出かけるなどしている。
- ・田中氏（高岡市）の系譜は不明であったが、西岡常一氏や中村外二氏などの高名な棟梁を尊敬するなど視野は広い。宮大工は仕事の内容から使う道具も種類が多く、道具へのこだわりも強いようだ。

### **板金**

- ・修行開始年齢が 15 歳という方が多く、修行期間も比較的長い。
  - ・松田氏（富山市）は独立後には大型の機械を導入して大型物件を施工するなどして積極的に新しいことに取り組んだようだ。
  - ・中川氏（富山市）は若い時から文化財の修復に携わるなど、高い技術力を買われ、後進の指導にも熱心だ。
  - ・土肥氏（黒部市）は休日を利用して高岡の佐野氏などに師事し技術を磨いた。
  - ・竹内氏（高岡市）は父に板金一般を教わりながら、先述同様の佐野氏から銅板加工を教わった。重要文化財となった高岡の菅野家の軒樋や飾枘を作ったという。（佐野氏の名前はいろんな所で聞いた。）
- 機械にも工夫をし、新しい工法も編み出したそうだ。後継者には息子さんがいるそうだ。

### **建具**

- ・伏木氏（砺波市）は小学校卒業後に住み込みで 7 年間の修行の後に独立し、事業の規模を大きくしたそうだ。機械化もすすめ、後継者もあるようだ。昭和の時代には国産材を使っていたがその後米ヒバやスプルースへと変わったが最近又国産材の使用が増えたそうだ。
- ・三木氏（高岡市）は中学卒業後に修業に入りこの道 45 年間切磋琢磨してきか、次から次へと新しい金物などがでることに懸念を感じている。
- ・竹本氏（射水市）は高校卒業後から 50 年間この仕事を続け、機械化は積極的に行ってきたようだ。かつては建築主から直接注文をうけることもあったが、今は工務店からの注文がほとんど。最近ではドアも既成品を使う住宅が増え、仕事も減ってきているそうだ。
- ・山本氏（立山町）は 16 歳で修行に入り 6 年間の修業の後に独立 74 歳の今も現役だそうだ。建具製作もコンピュータの時代になり、職人としてこれ



からのものづくりに挑戦したいとのこと。後述の小杉氏の技術の高さを評価されていた。

- ・小杉氏（入善町）は高校卒業後にこの道に入り7年の修業の後に独立。独立後に富山県建具展示会で同業者の作品をみて薫陶を受け、自分の腕を磨くために県外への修行へ出かけるなどして更なる技術の高みを目指したという。

調査から明らかになったのはこのような内容である。

### まとめ

■富山県における建築職人の職域についてまとめると

H26年度までに、まだカバーしていない職域もあるが、以下の25職種の75人の職人を調査した。

建築大工、宮大工、木挽、製材、銘木、鋸の目立て、漆塗り、古代色塗、トントン葺き、瓦、建築板金工、鋳金物、木彫、左官工、建具製作工、タイル工、畳製作工、型枠大工、鉄骨加工、アルミ加工、石工、造園、曳家工、コンクリート杭打設、配管工などへの取材を行った。

■職人の年齢層と後継者（伝承者）についてのまとめ

全般的に後継者は少ないが、大工、建具などの職種のなかで法人化した場合は後継者が確保されているようだ。

型枠大工や鉄骨加工ではCAD化されたために後継者がいるようだ。

また、全般的に機械化を積極的に進めた業種は後継者が確保しやすいようだが、大規模に機械化したにもかかわらず、後継者がいないケースも見受けられた。

■近代化に伴う変化に対応してきた職人の技術の記録についての整理として、業界団体への聞き取りも含めて考察したところ、以下のように考えられる。

- ・基本にある伝統技術や先人から受け継いだ技術の上に機械化や新しい技術・工法の普及に対応してきた。
- しかしながら、それですら追いつかない価値観の変化や技術の進化によって途絶えつつある技術が多いようだ。

感想になるが

・徒弟制度によって守られてきた側面を持つ職人の技術は戦後の急激な機械化・生産性の向上や経済性優先の価値観

のなかにあっても柔軟に対応して進化してきた。

しかしながら、更なる技術革新や社会構造の変化に対応しきれない職種も現れてきた。

となると、文化財の修復といったような特殊な場合でしか職人技術を活かす仕事はなくなるのか？

暮らし方の変化によって建築技術が変化し、職人の技術を発揮する場面が減っているのだとすれば、社会全体で今後の建築技術のあり方の先にある「住まい方、景観、歴史性、地域性」について考えていかなければいけないのではないか。

北陸新幹線が開通した今こそ、より富山らしいものを作りたいと思った。

自身が設計者として、職人技術を活用した設計を行うことをさらに意識していきたい。それは建築コストをコントロールするという課題でもある。この難題に取り組んでいくことでより良い建築となれば良いと思っている。

聞き取りで、何人もの職人さんが「まだ修行中であるのでこれまでで一番良い仕事はなにかと聞かれても答えられない」という方が多かったのが印象的であった。

### 今後の展望

建築職人アーカイブをとりまとめ、書籍化することで建築界だけでなく、広く県民に建築技術のあり方を共に考えてもらい、これからの建築生産の仕組みについて考えるための資料とし、これからの職人のための指南書としても活用されるようにしたい。

さらに、職域ごとに他の業種の職人の今後についても参考になればと考える。

### 課題として

- ・建築業界全体として今後、職人技術の継承や発展、人材育成のためにどのような取り組みを行っていけばよいのか。
  - ・今回の調査結果を広く県民へ周知するためにはどのような方法がよいのか。
  - ・今後の建築生産のあり方について多くの議論をしていかなければいけないのではないかと。
- ということが残された課題だと思っている。
- 以上 ご清聴ありがとうございました。

— 以上 —